

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300191		
法人名	株式会社 ひこうせん		
事業所名	グループホーム ひこうせん		
所在地	千葉県千葉市稲毛区菟台町632-40		
自己評価作成日	令和8年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://gh-hikousen.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和8年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に立地し、ホーム前のスポーツセンター運動公園が、散歩コースになっています。桜の名所でもあり格好の環境の中で利用者の皆様が穏やかに生活しています。散歩に出かけたり感染対策を行いながら季節行事も実施しています。個々の認知症の状態に応じた個別支援や、皆さんで楽しめる歌やゲームなどグループホームならではの活動を行っています。ご家族には毎月健康状態や生活の様子を詳細に報告し共有しています。年4回開催される運営推進会議には毎回多くのご家族の方が参加されご協力頂いています。今年は開設20周年を迎えます。安心と信頼を礎に必要とされる施設としてあり続けたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひこうせんは、2026年3月1日をもって開設21周年を迎えました。開設時から担当されている施設長の強い信念の元、スタッフの皆さん、関係各所の方々、入居者さま、そのご家族の方々の共感があることだと思われま。5年前も、新型コロナウイルス感染症の流行で、様々な制約に縛られ大変苦労された時期もありましたが、常にしっかりとした信念を持ち続け「主役は利用者」であることを貫いてこられた結果、それが更に周りの方々の共感を生んでいるものと思われま。これまでの最大の障害であった感染症の怖さを十分に感じ取られ、コロナ禍から5年が経過した今でもその予防には細心の注意を払ったケアが行われている事が良く分かります。「こころの繋がり」を重視される施設長の想いは「主役は利用者であり、スタッフは黒子である」という心構えは、あらゆる障がいを乗り越えることが出来た最強の心得であり、利用者、その家族にとって21年間の大きな支えであったのではないかと感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と心得15ヶ条を全スタッフが共有し日々のサービスに生かせるよう取り組みを行っている	ひこうせんスタッフの心得15箇条は開設以来、常に職員がいつでも確認出来る様、日々の唱和、掲示はもちろんのこと、名札の裏にも印刷されている。今年で開業21年になるが、スタッフもようやく覚えるようになってくれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるクリーンデイには入居者が参加している。また定期的に開催される地域ケア会議に参加して近隣住民と交流し事業者も地域の一員として活動を行っている	地域活動としては今は春と秋の自治会主催のクリーンデイしかないが、利用者も半数は90歳を超えており、なかなか思う様に参加出来なくなっている。むしろ年4回開催している運営推進会議の充実に力を入れ、地域の関係者、利用者家族も参加して頂き、情報発信と収集を行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌「あおぞら」を自治会会員に回覧し入居者の暮らしぶりを紹介することで、認知症の人への理解、啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は全4回開催し毎回多くの家族が参加しご意見ご要望をきくことが出来た	運営推進会議は毎回テーマを予め決めて、関係各所には報告を行なっている。参加者は地域包括、民生委員、薬剤師、等が参加するが、その他、利用者家族が多く参加してくれるため、想いや、要望を直接生で聞ける場面として大変重宝しており、可能なことは直ぐに実践に移すことも出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政やあんしんケアセンターには「あおぞら」の広報紙を配布しサービスの取り組みや報告を行っている。	毎月「あおぞら」という広報紙を発行しており、市の高齢施設課、介護保険課や地域包括(安心ケアセンター)等へ配布し、事業所の活動や雰囲気を伝え、理解を深めて頂くと共に、地域への認知度アップ、新規利用者や人材確保につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不審者侵入防止のセキュリティを設置し、安全な暮らしを提供すると共に、内側からは簡易に外へ出られるように配慮した拘束しないケアの取り組みを行っている	身体拘束の防止は、利用者の精神的尊厳や人権を守り自立した生活を支え認知機能の低下を防いでいく事から「その人を理解して支えるケア」でなければならない。そういった意味で職員には根気よく対応するように指導を行なっている。外部研修ではWEBを活用した個別講習を受講させ、知識の幅を広げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待につながる不適切なケアが行われていないか日々管理者の確認が現場で行われている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し周知を図っているが、実際には活用できる事例はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時からケアに対する取り組みや考え方、契約の説明などを丁寧に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時にご本人の様子など報告をしながら、都度意見や要望等伺う機会を設けている。また運営推進会議の場でも同様に意見要望を募り運営に反映させている	3ヶ月に1回の運営推進会議への家族参加は大変良いコミュニケーションの場になっているように思える。利用者本人の生活記録は毎月1回書面にてご家族に発行し、エピソードや健康面、医療面、生活の様子などを記載している。利用者家族のアンケートでは外出の機会を増やして欲しい等要望は上がっているが、外出支援の効果を良くご存じの事業所としては感染症の怖さとのバランスを考えてしまう。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体・常勤・非常勤・フロア・個別とミーティングのメンバーは内容や状況に合わせて多彩な組み合わせで行い個々が自由に発言できるよう配慮している	人材確保に苦勞している現実であるが、当事業所では基本的に外国人の採用は控えている。理由はコミュニケーションを重視しているからであるが、日本人同士でも常勤スタッフとパートさんとは熱量の違いを感じることもあるし、定期的な個別面談の場は重要視する中、職員の「気づき、アイデアで良い事は直ぐに対応する事を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や努力を評価している。やりがいのある職場環境となるように努めている。処遇改善加算1を取得し待遇の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等の積極的な参加を促し資質向上に努めている。資格取得の為の研修に参加する場合はシフト調整も優先的に行う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば積極的に交流することは望ましいと考えるが、相互訪問は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを始める時に本人の望む生活の実現に向けホームではどのような支援ができるか具体的に伝え、本人・家族に安心と信頼を寄せてもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞きながら本人と家族に生じている困りごとにホームがどのようにかわり支援できるか、入居によって家族にどんな安心を届けることができるかを丁寧に説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の希望と現況の把握を的確に行い、ニーズにあったサービスが利用できるように対応している。また本人に必要なサービスが他にある場合には家族に説明を行う対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に対し人生の先輩であるという尊敬や敬意の念を常に持って接するように心がけている。また互いに協働しながら楽しい暮らしとなるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や暮らしぶりを詳細に伝えながら家族の思いや要望を受け止め、より良い関係が築けるように日々努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅の時親しくしていた友人の訪問や墓参りなど入居後も関係が継続している	入居者は地域ご出身の方で、法事、墓参り、美容院通いなどの機会も多くある。事業所でも定期的に、お花見、敬老会、豚汁会など、イベントを企画し、家族、旧友等を招待し、入居者の皆さんと楽しんで頂く機会も設けている。イベントの状況は機関誌の「あおぞら」に掲載し地域の方々にも配布している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごせる時間を作ったり居室訪問をし合い交流する時間を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族と交流を行い希望があれば相談にも努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話によるコミュニケーションのみならず生活場面や利用者同士の会話・家族からの情報収集を行って真の意向の把握に努めている	開設当初からの「心での繋がり」を重んじる施設長の思いが職員に浸透し、一丸となって利用者の思いを汲み取る風土がある。日々の暮らしのエピソードをありのまま記録し、ミーティング等で活発に意見交換を行うことで支援の質を高めている。真心を込めた関わりを通じて利用者が「理解されている」と感じ安心できる繋がりを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りを主に家族から本人の生活歴や情報を得て本人像の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、食事量、水分量、排泄状態は記録物から情報を収集し、毎日の暮らしぶりを常に把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からアセスメントを多面的に行い、その人らしい暮らしとなる計画の作成に努めている。またスタッフ個々の支援状況を集約してモニタリングの情報収集に生かしている	日々の申し送りや会議に加え、施設長が職員と個別に対話を重ねることで、利用者の状況に即した迅速な支援体制を構築している。運営推進会議では家族が要望を伝えやすいアットホームな関係性を築き、認知症による事象も隠さず誠実に共有している。このような取り組みにより、職員や家族からの多様な意見を介護計画に反映させ、本人主体のより良い暮らしの実現に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録(ケース記録・日報)等から本人の詳細な情報を共有し計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じた訪問医療の開拓や福祉用具導入また外部サービスのリハビリを入れ個々の状況に応じた対応を柔軟に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民会議への参加によって地域の情報や協力関係を得られるよう努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診による日常健康管理、専門医への受診、入居前のかかりつけ医への受診、希望の病院へ受診が出来るよう支援を行っている。	月2回の往診には薬剤師も同行し、不眠や便秘等の症状に対し即時的な対応が可能となっている。日々のバイタル測定結果は血圧ノートで医師と共有し、きめ細やかな健康管理を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護STの契約は行っていないかわりに訪問医による細やかな健康管理や急変等緊急時にDrに連絡出来る体制整備が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は医療提携をしている病院が主であり、主治医の指導の下、看護師やSMWと連携を図っている。入院の際には環境の変化による混乱を最小限にするためにできるだけ早期に退院できるように病院機関と調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の際に重度化、終末期の際の要望等を家族より聞き、ホームでできる支援を十分に説明し理解を得ている。また本人の状態が変化していく過程に於いても話し合いを重ね希望の確認を行っている	施設では、生活支援に重点を置き24時間の医療体制ではないことを契約時より家族へ丁寧に説明している。経口摂取の低下やケアでの安全確保に懸念が生じた際は、家族と話し合い、医療機関や特別養護老人ホーム等の状態に適した施設への移行支援を実施。運営推進会議等を通じて重度化への対応方針を早期から共有し、家族の理解を得ながら地域との関係者と連携した切れ目のない支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時OJTにて研修を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間・夜間を想定した避難・誘導の訓練・消火器の使い方の自主訓練を行い、消防署に報告している	日中訓練では利用者全員が防災頭巾を着用し門扉まで避難し、職員が誘導手順を確認している。エレベーターは災害時には1回しか作動できないシステムのため常時2Fに固定してある。また、日々の運動を通じ利用者の身体機能維持に努め避難体制を整えている。地域自治会との安否確認カードの活用や、近隣の特別養護老人ホームへの避難協力体制を構築し、昼夜を問わず安全確保を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で過ごされる際には入口を閉めて一人の空間、落ち着ける環境の確保に努めている。ご本人のその時の状況に合わせた対応をさりげなく行っている	利用者の生活リズムを尊重し、起床に合わせた食事提供や入浴時間の柔軟な調整など、本人主体の支援を展開している。食事介助の際は、他者の視線に配慮した配席や、スカーフ風のエプロンの採用により、個人の尊厳と羞恥心に配慮。また、スピーチロックや「○○ちゃん」といった不適切な呼称を互いに注意し合うなど、親しき仲にも礼儀を重んじる姿勢を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選定は自ら行いお洒落を楽しんでもらうようにしている。家事参加やレクなど本人の選択により、自由に意思決定できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好みや状況に応じて入浴日、時間、散歩も自由に選択できるようにし、本人の「今したいこと」が行えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服に合わせてペンダントやブローチでお洒落を楽しむ ヘアスタイルは美容師と本人が相談して決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛付け、配膳、片付けなどやりたい利用者が自由に参加できるように支援している	利用者の残存能力や関係性を考慮し、盛り付けや片付け等の役割をケアプランに反映させ、生活の継続性を支援している。季節の行事食では、桜餅作りなどの調理レクリエーションを通じ、回想法的交流や楽しみを創出。恒例の「うなぎ会」では嗜好に応じた代替メニューを選択可能とし、近隣公園での「豚汁会」など、食を通じた季節感と喜びが得られる支援を展開している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録、飲水は個々好きな飲み物を提供している。嚥下障害のある方にはトロミ剤の利用で飲みたい物を摂取出来るように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは能力に応じて個々やり方が異なるが見守り管理は徹底されている。口腔内乾燥予防にジェルを使用している人もいる口腔管理指導を定期的にほとんどの入居者が受けている。又歯科医の指導を受けながらスタッフが状態に合わせた口腔ケアを実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が基本、全員の方がトイレで行う。また排泄パターンを見ながらさりげない声かけでトイレ誘導し下着の交換を行う場合もある。その際には意思の尊重やプライバシーに配慮しながら清潔保持に配慮を行う	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員で共有している。おむつを最終手段と捉え、尿意や便意に関わらず適切なタイミングでトイレ誘導を行い、夜間も状態に応じポータブルトイレ等を活用し支援している。また、可能な動作は本人が行う生活リハビリを徹底し、立位保持や自立度の維持・向上に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせてヨーグルトや果物の提供を行い便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調・気分に合わせて入浴支援を行っている。女性スタッフの対応を希望する方にはそれに合わせる配慮も行っている	利用者の生活習慣や個性を尊重し、立位での入浴やシャワー浴など、安全に配慮しつつ心身の状態に応じた支援が柔軟に展開されている。入浴中は音楽や会話を取り入れ、リラックスできる雰囲気演出。さらに、地域や家族からの季節の贈り物によるゆず湯や菖蒲湯などを実施し、清潔保持に留まらない季節感や情緒を楽しめる場を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に沿った休息時間を設けている。昼間自ら休息している場合には夜の睡眠に影響しないように時間を見計らう配慮を行い生活リズムが壊れない様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はスタッフが支援し、飲み忘れや誤薬しないように2名1組となって適切な服薬が出来るような体制を取っている。薬の変更に対し全職員に周知し、観察・記録・血圧チェックを求めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力、性格や好みを理解した上で、レクや家事、外出先等を選び、一人ひとりが活躍出来る場面作り、得意とするもので役割をもち自信や活力がもてるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩へ出かける支援を行っている	日常的な散歩以外にも、花見や豚汁会などのイベントを企画し外出の機会を創出している。地域住民との清掃活動では、歩ける方が雑草を取り、車椅子の方が袋に入れる。歩行状態に応じた役割分担を行い、共同作業を通じた社会参加を支援している。また、敬老会等ではバスや介護タクシーを利用し、外食支援を行い移動時間も含めた高揚感や他者との交流を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭所持は紛失の危険もあり、基本的には行っていないが、希望があれば家族と相談し自己責任に於いて所持している入居者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望がある場合にはプライバシーを確保し居室にて話せる様に配慮を行っている。毎週決まった曜日時間に家族と電話で交流している入居者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵を展示している。共用の空間はこまめな換気や明るさの調整、温度など入居者の居心地を考えた調整を行っている	換気と湿度などの環境管理が行き届き、各階に畳の小上がりを設け落ち着いた雰囲気がある。利用者同士の相性に配慮した座席配置を行い、交流の円滑化を図っている。また、毎日ストレッチや運動を実施、ボランティアのピアノ演奏による歌の会を定期的に開催している。身体機能の維持と情緒の安定を両立し、日常的に心地よさと楽しさを実感できる空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にはベンチが設置されていたりリビングでも窓辺に椅子を置いたりと一人や他者と交流できる空間も作られている。またソファでくつろぎながらテレビを見ることも自由に行える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、身の回りの馴染みのもの、写真、位牌等を居室に置いて本人の自由な暮らしの支援を行っている	使い込まれた家具や貼り絵・押し絵などの作品、思い出の品を持ち込み、本人らしい空間を演出している。自室の掃除や草花の水やりなどの活動をケアプランに反映し、役割を持つことで自分らしい生活を支援している。また、針仕事などの作業は安全面を考慮して共有スペースで行うなど、安らぎと安全の両立を図り居室で過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活が本人主体となる様に、見守り声かけ支援を基本に行っている。建物内での安全な移動が行えるように動線の確保・環境整備にも配慮している		